

**山元町小・中学校再編にかかる地域住民意向調査**

**【報 告 書】**

平成 3 0 年 3 月

山元町教育委員会

# 目 次

## 【地域住民意向調査】

### 1章.調査の概要

(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査期間	1
(4) 調査項目	1
(5) 回収状況	1

### 2章.調査の概要

1 回答者の属性	
(1) 性別	2
(2) 世代別	2
(3) 居住する行政区	2
(4) 居住する小学校区	3
(5) 中学生以下の子どもの人数	3
2 学校の存在意義と学校の教育環境に期待するもの	
(1) あなたにとって学校とは（複数回答）	4
(2) 小学校の教育環境に期待すること（複数回答）	4
(3) 中学校の教育環境に期待すること（複数回答）	5
3 望ましい学校規模	
(1) 望ましいと考える小学校1学年あたりのクラス数	5
(2) 望ましいと考える小学校1クラスあたりの児童数	5
(3) 望ましいと考える中学校1学年あたりのクラス数	6
(4) 望ましいと考える中学校1クラスあたりの生徒数	6
(5) 複式学級の編成について	6
4 山元町小・中学校再編における検討の必要性について	
(1) これからの山元小・中学校再編の検討について	7
(2) 再編を検討していく際に重要と考えること	12
(3) 再編を検討する段階でない・必要ないとしたこと	12
5 自由記述（抜粋）	13

# 1章.調査の概要

## 【地域住民意向調査】

### (1) 調査の目的

平成25年3月に震災により被災した中浜小学校と山下第二小学校の併設状態解消を最優先に検討し、併せて、将来の学校再編について幅広い視点から検討が必要であるとし、「山元町小・中学校教育環境整備方針」を策定しました。

全国的な少子高齢化により、児童生徒数の減少が進んでおり、本町においても先の東日本大震災の影響等も含め、現在も児童生徒数の減少が進んでいる状況です。

このような状況の中、今後の本町の学校再編のあり方について、「児童生徒にとってよりよい学び(学校生活)ができる環境をつくる」ことを第一義に、前回の教育整備方針を含め、改めて本町の学校再編の在り方について検討を進めることとし、意向調査を実施するものです。

### (2) 調査対象

町民 18 歳以上 1200 人を対象(小・中学校及び保育所・幼稚園保護者を除く無作為抽出)

### (3) 調査期間

平成 30 年 1 月 15 日郵送にて配布。1 月 29 日を最終期日として返信用封筒にて回収

### (4) 調査項目

区分		設問
1	回答者の属性	問 1. 性別、年齢について
		問 2. 居住する行政区と小学校区について
		問 3. 居住世帯における子どもの有無
2	学校の存在意義と学校の教育環境に期待するもの	問 4. 自身が考える学校の存在意義やあり方について
		問 5. 小学校と中学校の教育環境に望むこと
3	望ましい学校規模	問 6. 小学校の学校規模について
		問 7. 中学校の学校規模について
		問 8. 複式学級について
4	学校再編検討の必要性について	問 9. 学校再編検討の必要性について
		問 10. 上記問 9 の「検討要」とした場合に重要と思うこと
		問 11. 上記問 9 の「検討不要」の理由
5	自由記述	問 12. 小中学校再編等にかかる意見や心配事について

### (5) 回収状況

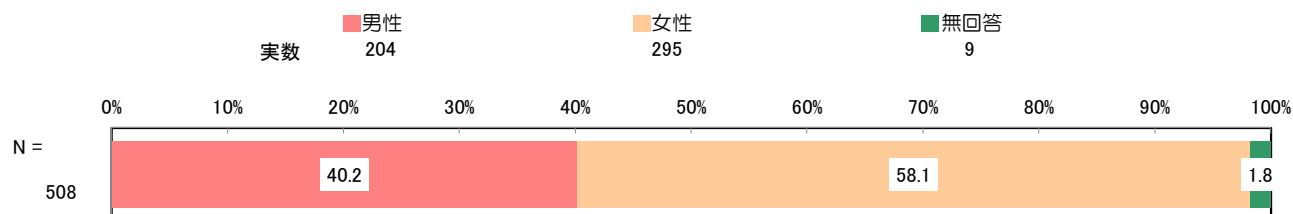
配布数	総回収数	有効回収数	無効回収数	総回収率	有効回収率
1,200件	511件	508件	3件	42.6%	42.3%

## 2章. 地域住民意向調査結果

### 1 回答者の属性

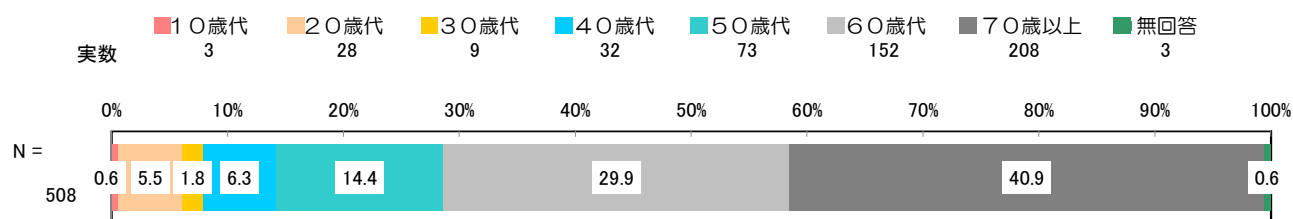
#### (1) 性別【問 1-①】

回答者の性別構成は、「男性」が 40.2%、「女性」が 58.1%であった。



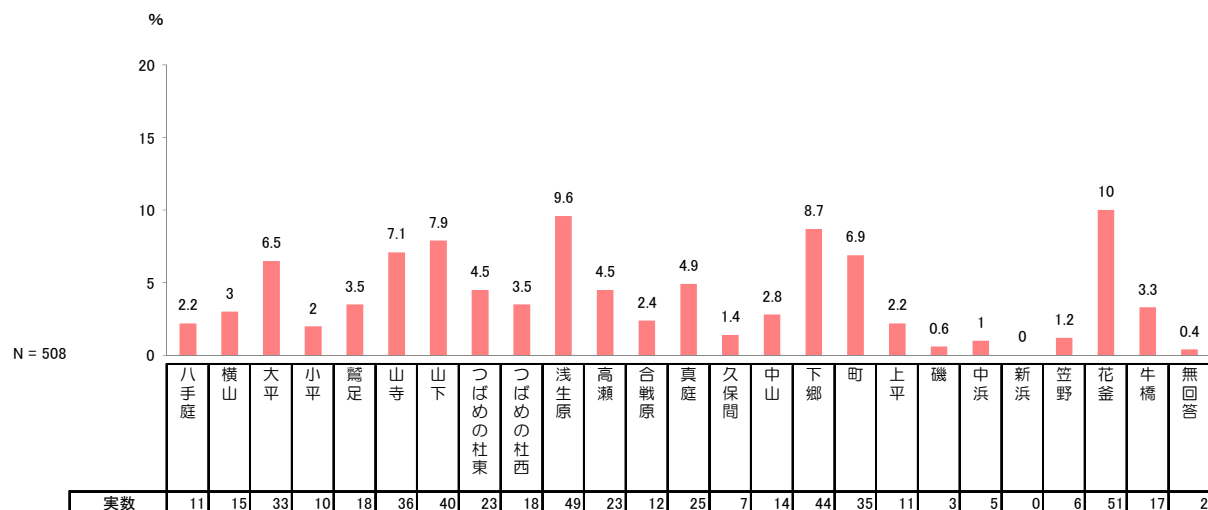
#### (2) 世代別【問 1-②】

世代別年齢で最も多いのは、「70 歳以上」40.9%、次いで「60 歳代」29.9%、「50 歳代」14.4%であり、回答者の 7 割以上が 60 歳以上であった（小・中学校保護者意向調査、保育所・幼稚園保護者意向調査における対象者との重複を避けた結果）。



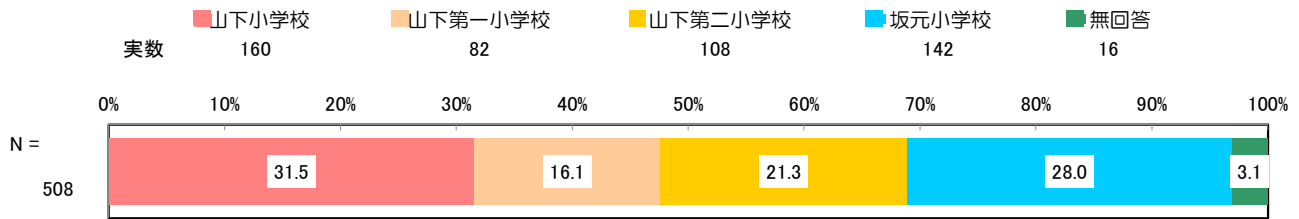
#### (3) 居住する行政区【問 2-①】

居住する行政区で最も多いのは、全体で「花釜地区」10.0%、次いで「浅生原地区」9.6%、「下郷地区」8.7%であった。



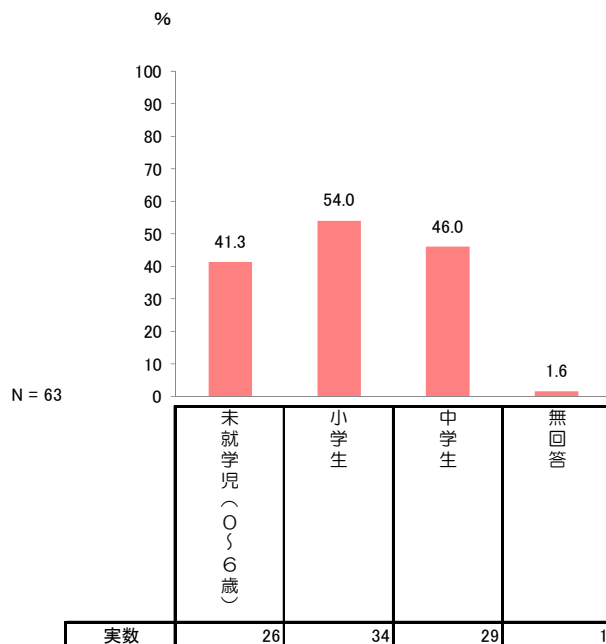
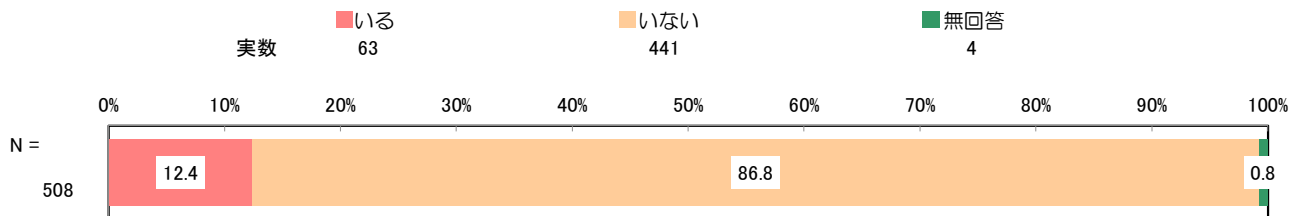
#### (4) 居住する小学校区【問 2-②】

回答者が居住する小学校区で最も多いのは、「山下小学校区」31.5%、次いで「坂元小学校区」28.0%、「山下第二小学校区」21.3%であった。



#### (5) 中学生以下の子どもの人数【問 3】

同じ世帯に中学生以下の子どもがいる回答者 63 名中、中学生以下の子どもの人数が最も多いのは「小学生」50.4%、次いで「中学生」46.0%、「未就学児」41.3%であった。



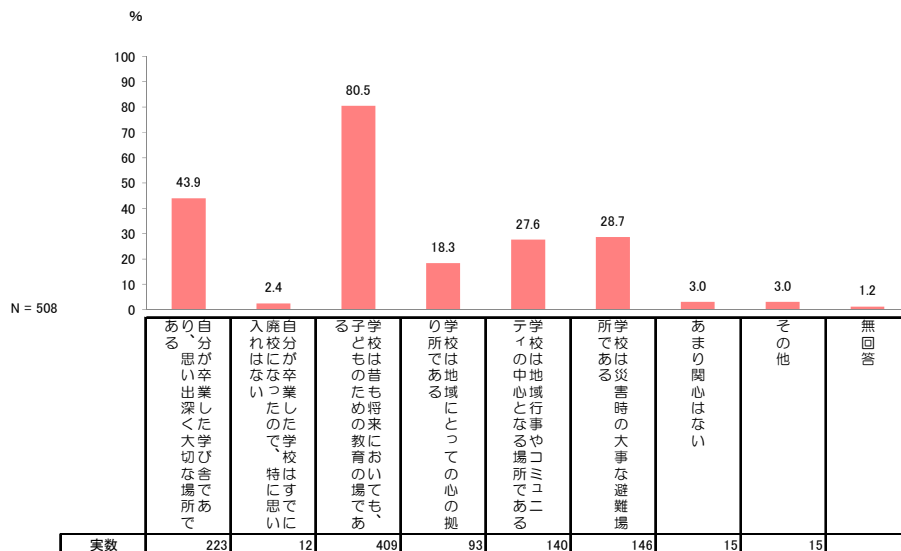
## 2

## 学校の存在意義と学校の教育環境に期待するもの

## (1) あなたにとって学校とは(複数回答)【問 4】

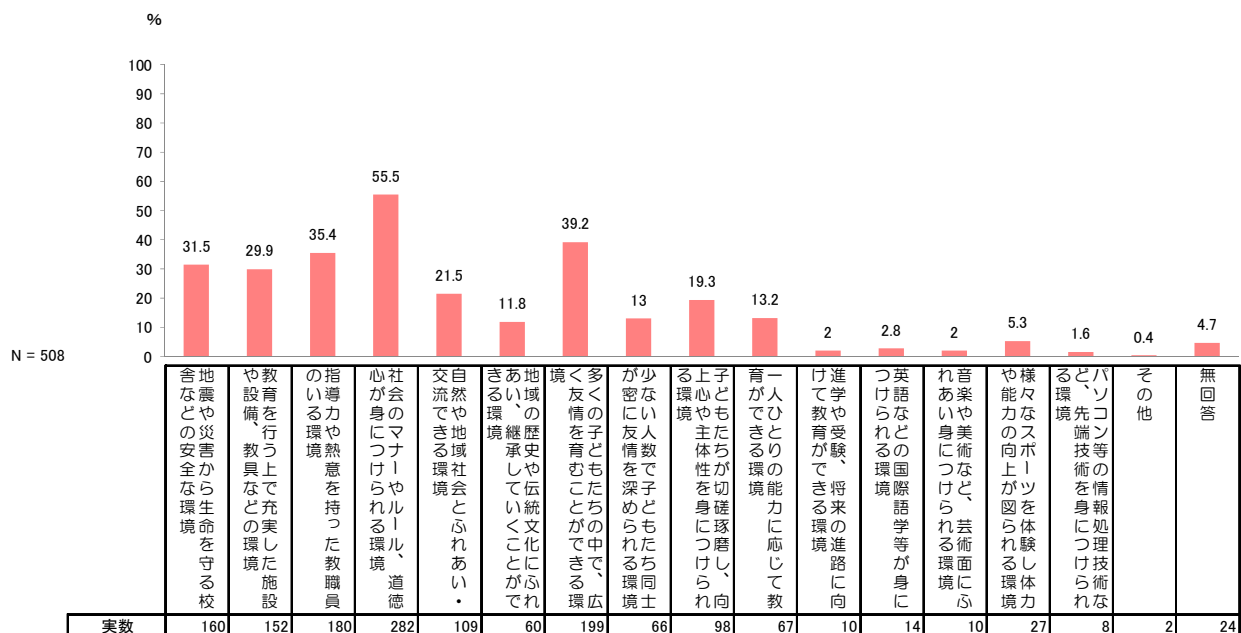
「あなたにとって学校とはどのようなものですか?」という問いで最も多いのは、「学校は昔も将来においても子どもための教育の場…」409票(80.5%)、次いで「自分が卒業した学び舎で思い出深い…」223票(43.9%)、「学校は災害時の大事な避難場所…」146票(28.7%)であった。

これらのことから8割以上の回答者は、「学校とは子どもたちのためのもの」との思いにて回答していることが伺える。



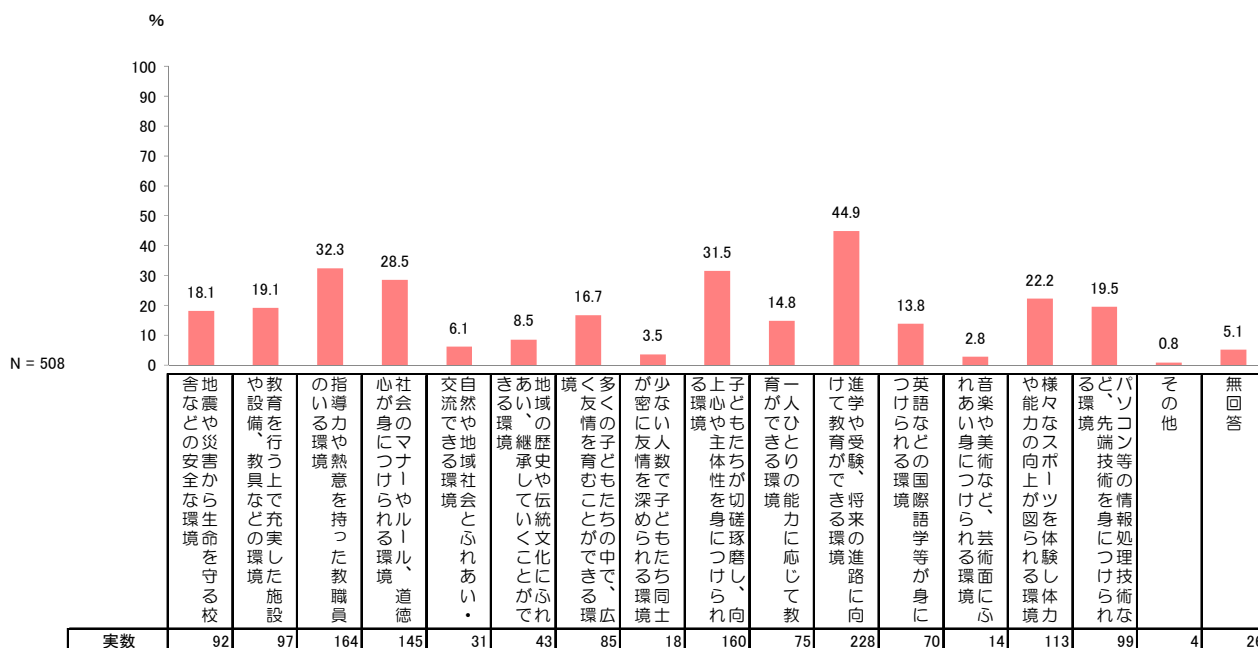
## (2) 小学校の教育環境に期待すること(複数回答)【問 5-①】

小学校の教育環境に期待することで最も多いのは、「社会のマナーやルール、道徳心が身につく…」282票(55.5%)、次いで「多くの子どもたちの中で友情を育む…」199票(39.2%)、「指導力や熱意を持った教職員のいる…」180票(35.4%)であった。これらのことから、地域が期待する小学校の教育環境とは、多くの子どもたちの中で友情を育みながら、社会性や道徳心を身に付けられる環境と捉えられる。



### (3) 中学校の教育環境に期待すること（複数回答）【問 5-②】

中学校の教育環境に期待することで最も多いのは、「進学や受験、将来の進路に向けた教育…」228 票（44.9%）、次いで「指導力や熱意を持った教職員のいる…」164 票（32.3%）、「子どもたちが切磋琢磨し…」160 票（31.5%）であった。これらのことから、地域が期待する中学校の教育環境とは、指導力ある教育現場のもと、進学・受験などの将来に向けて子どもたち同士が切磋琢磨し、勉学やスポーツに主体的に励んでいける環境と捉えられる。

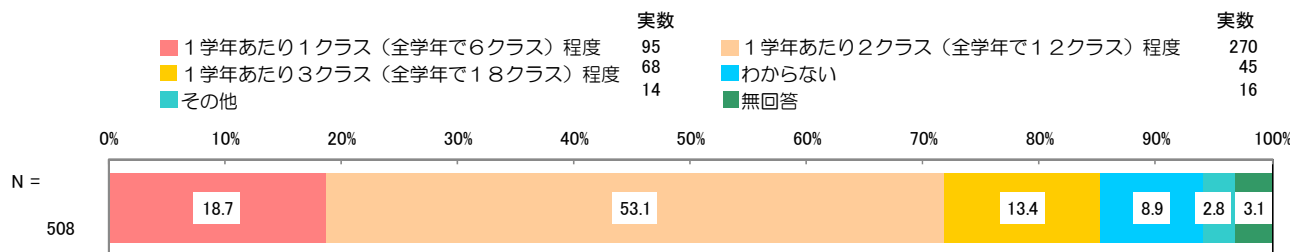


## 3 望ましい学校規模

### (1) 望ましいと考える小学校 1 学年あたりのクラス数【問 6-①】

望ましいと考える小学校 1 学年あたりのクラス数で最も多いのは、「2 クラス程度」53.1%、次いで、「1 クラス程度」18.7%、「3 クラス程度」13.4%であった。

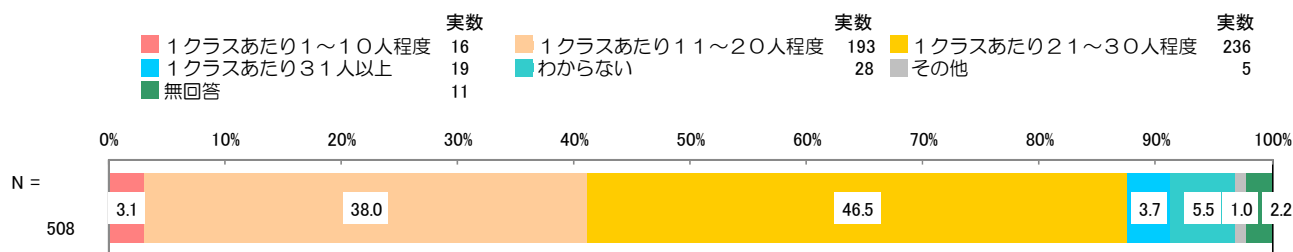
回答者の半数以上が 1 学年あたり「2 クラス程度」を望んでいることが伺える。



### (2) 望ましいと考える小学校 1 クラスあたりの児童数【問 6-②】

望ましいと考える小学校 1 クラスあたりの児童数で最も多いのは、「21～30 人程度」46.5%、次いで「11～20 人程度」38.0%、「わからない」5.5%であった。

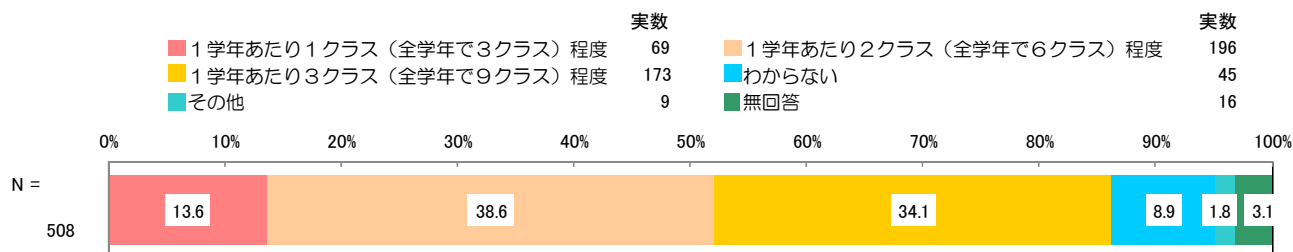
回答者の 4 割強が 1 クラスあたり「21～30 人程度」を望んでいることが伺える。



### (3) 望ましいと考える中学校1学年あたりのクラス数【問7-①】

望ましいと考える中学校1学年あたりのクラス数で最も多いのは、「2クラス程度」38.5%、次いで「3クラス程度」34.1%、「1クラス程度」13.6%であった。

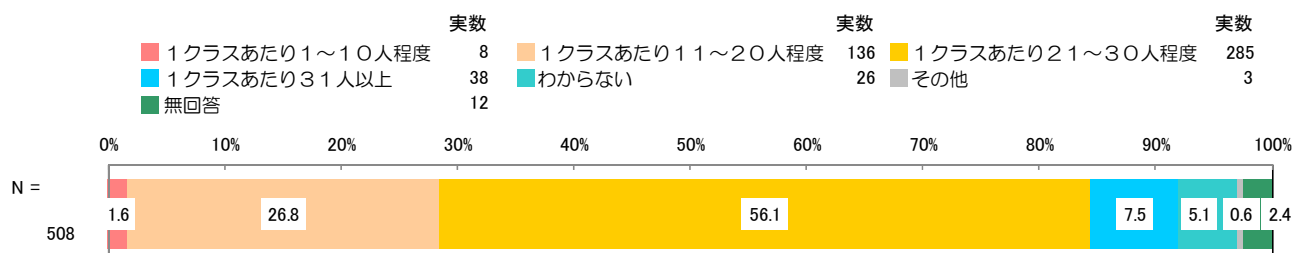
回答者の7割以上が、中学校1学年あたり「2～3クラス程度」としていることから、中学校においては、最低限クラス編成可能な規模を望んでいることが伺える。



### (4) 望ましいと考える中学校1クラスあたりの生徒数【問7-②】

望ましいと考える中学校1クラスあたりの生徒数で最も多いのは、「21～30人程度」56.1%、次いで「11～20人程度」26.8%、「31人以上」7.5%と続く。

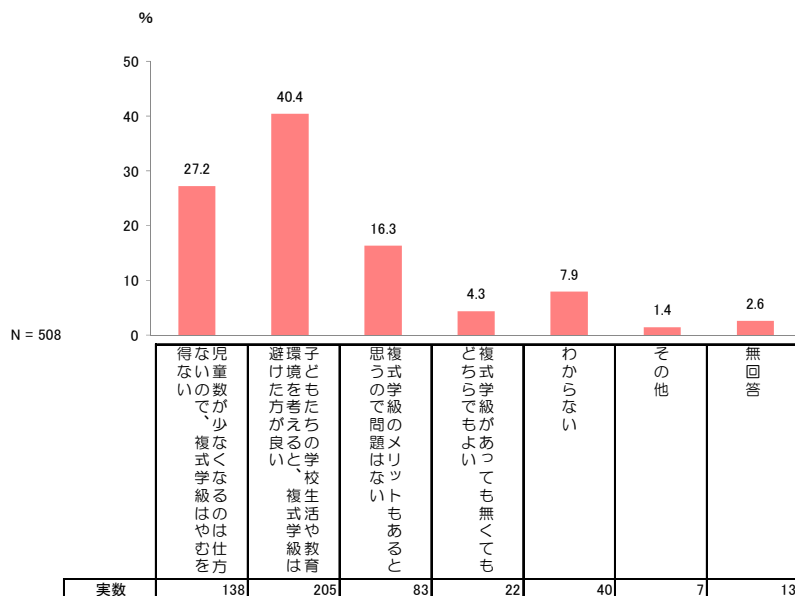
回答者の5割以上が1クラスあたり「21～30人程度」と、クラス人数に関しては小学校と同じ程度のクラス人数を望んでいることが伺える。



### (5) 複式学級の編成について【問8】

「複式学級編成の可能性が出てきた場合についてどう考えるか」の問いで最も多いのは、「…複式学級は避けたほうが良い」40.4%、次いで「…複式学級はやむを得ない」27.2%、「複式学級のメリットもある…問題はない」16.3%であった。これらのことから、回答者の4割が複式学級は避けた方がよいとの意向を示している。



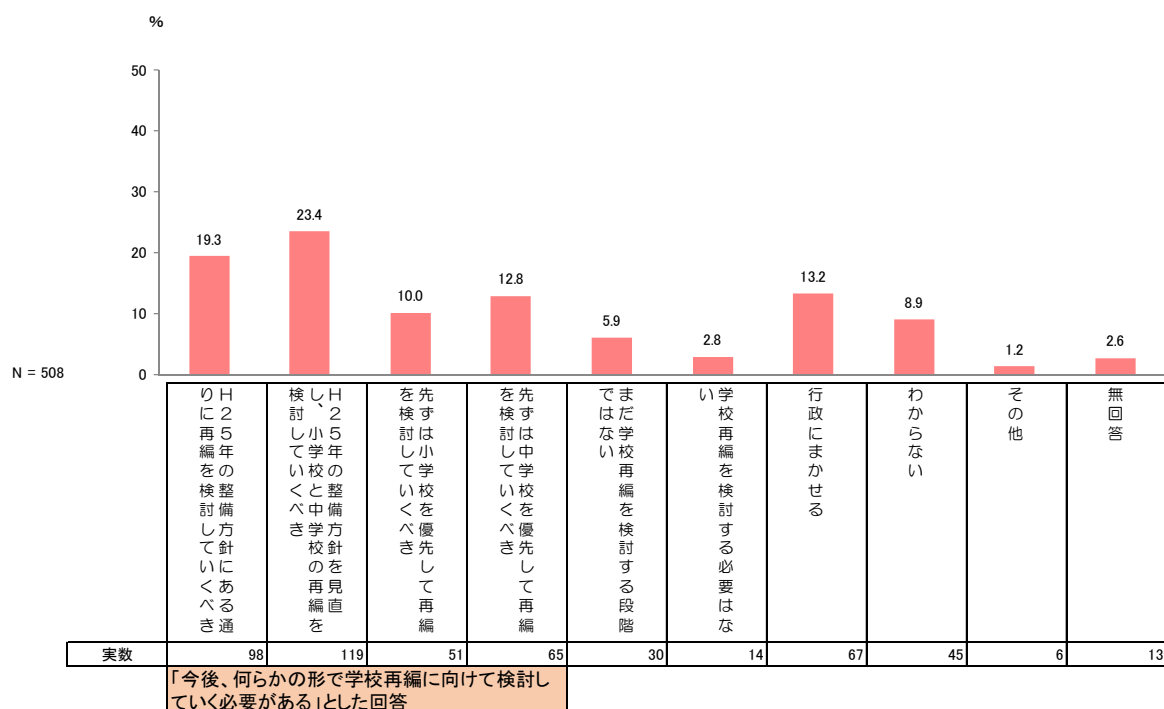


## 4 山元小・中学校再編における検討の必要性について

### (1) これからの山元町小・中学校再編の検討について【問 9】

今後の山元町教育環境を考える上での「山元町小・中学校再編における検討の必要性」の問いで、最も多いのは「H25年の整備方針を見直し再編を検討…」23.4%、次いで「H25年の整備方針にある通りに再編を検討…」19.3%、「行政にまかせる」13.2%であった。「H25年の整備方針を見直し再編を検討…」と「H25年の整備方針にある通りに再編を検討…」に「まずは小学校・中学校を優先して再編を検討…」の結果を合わせると、回答者の6割以上が「今後、何らかの形で学校再編に向けて検討していく必要がある」と考えていることが伺える。

一方、「まだ学校再編を検討する段階ではない」は5.9%、「学校再編を検討する必要はない」2.8%、合わせて8.7%と、再編の検討を不要とする意向は1割に満たない結果であった。



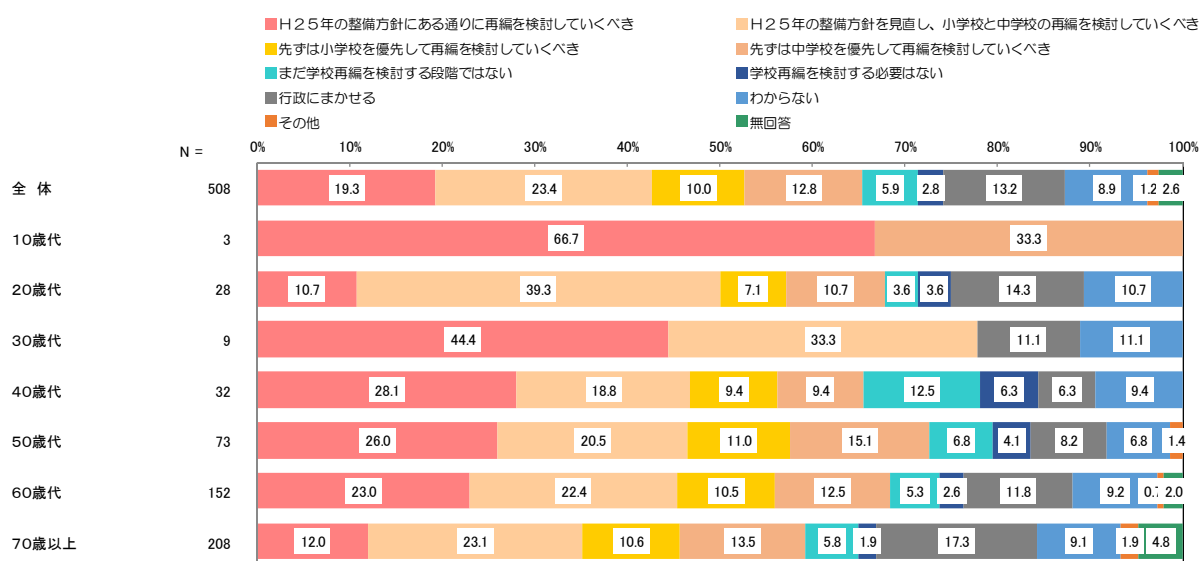
## 【世代別クロス集計】

ここでは、前述した「山元町小・中学校再編における検討の必要性」の結果について世代別にその傾向をみていくものとする。

全体では6割以上が、「今後、何らかの形でも学校再編の検討は必要」と回答しており、中でも「10歳代」、「30歳代」、「50歳代」については、7割以上の回答者が「今後、何らかの形でも学校再編の検討は必要」との回答結果であった。

一方、「まだ学校再編を検討する段階ではない」と「学校再編を検討する必要はない」を合わせて多かった世代は、「40歳代」が18.8%、次いで「50歳代」10.9%、「60歳代」8.1%、「70歳代」7.7%であった。

また、60歳以上の高齢世代においては「行政にまかせる」との結果が、「60歳代」11.8%、「70歳以上」は17.3%と、1割を占める割合であった。

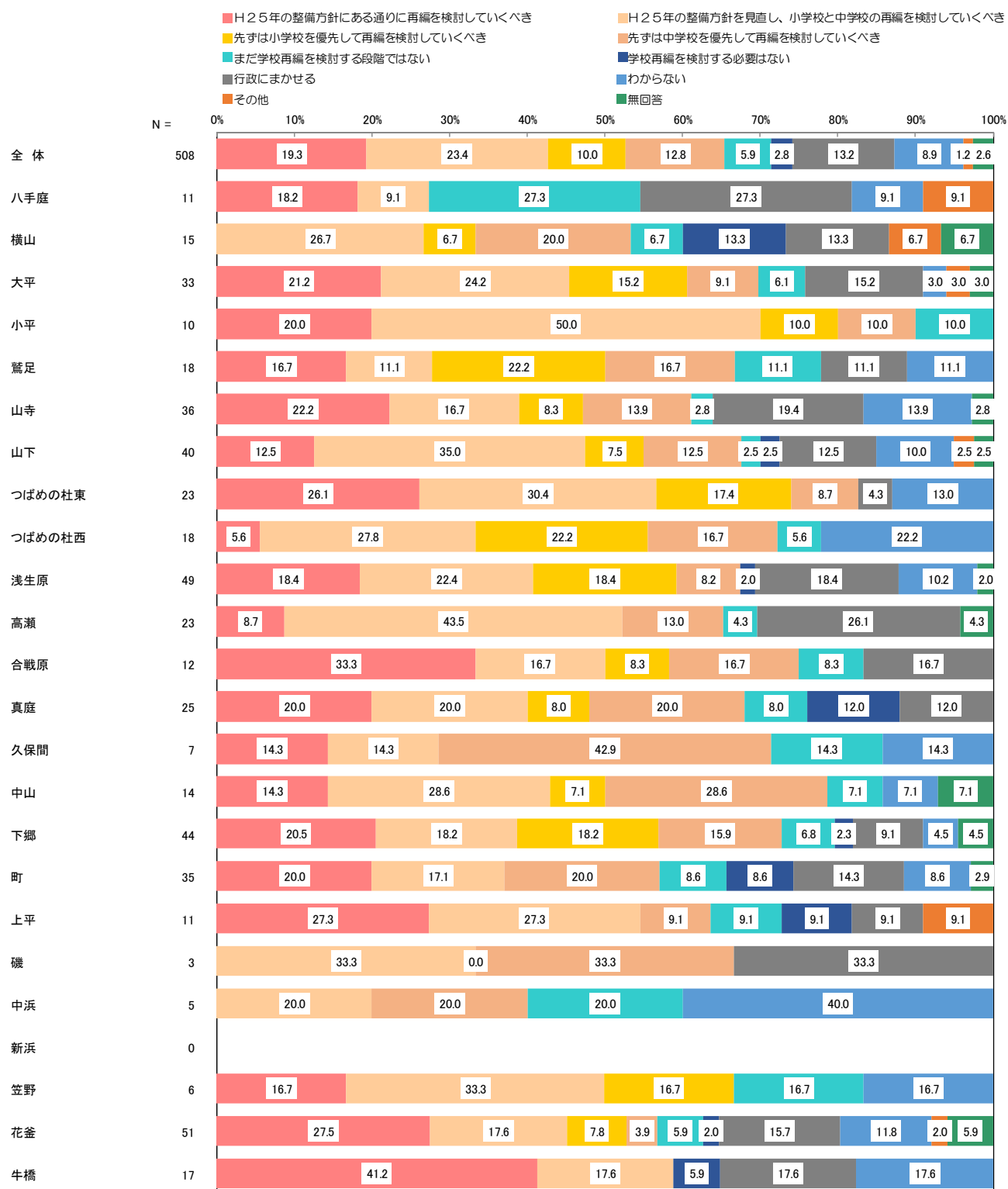


	N=	し る H 2 5 年 の 整 備 を 方 針 に し て い く べ き	再 編 を 検 討 し て い く べ き の 見 直 し	H 2 5 年 の 整 備 方 針 を 見 直 し	再 編 を 検 討 し て い く べ き の 見 直 し	再 編 を 検 討 し て い く べ き の 見 直 し	再 編 を 検 討 し て い く べ き の 見 直 し	再 編 を 検 討 し て い く べ き の 見 直 し	再 編 を 検 討 し て い く べ き の 見 直 し	再 編 を 検 討 し て い く べ き の 見 直 し	再 編 を 検 討 し て い く べ き の 見 直 し
全体	508	98	119	51	65	30	14	67	45	6	13
10歳代	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
20歳代	28	3	11	2	3	1	1	4	3	0	0
30歳代	9	4	3	0	0	0	0	1	1	0	0
40歳代	32	9	6	3	3	4	2	2	3	0	0
50歳代	73	19	15	8	11	5	3	6	5	1	0
60歳代	152	35	34	16	19	8	4	18	14	1	3
70歳以上	208	25	48	22	28	12	4	36	19	4	10

※構成比が0.0%の項目については、グラフ内の値(数値)の表記を省略している。

## 【行政区別クロス集計】

同じように、前述した「山元町小・中学校再編における検討の必要性」の結果について、ここでは行政区別にその傾向をみていくものとする。「八手庭」と「中浜」を除く行政区は、5割以上の割合で「今後、何らかの形で学校再編の検討は必要」としていることが伺える。一方、「まだ学校再編を検討する段階ではない」と「学校再編を検討する必要はない」を合わせて多かった行政区は、「八手庭」27.3%、次いで「中浜」「横山」「真庭」20.0%、「上平」18.2%であった。



	N=	H25年の整備方針にある通りに再編を検討していくべき	H25年の整備方針を見直し、小学校と中学校の再編を検討していくべき	H25年の整備方針を見直し、小学校と中学校の再編を検討していくべき	先ずは小学校を優先して再編を検討していくべき	先ずは中学校を優先して再編を検討していくべき	まだ学校再編を検討する段階ではない	学校再編を検討する必要はない	行政にまかせる	わからない	その他	無回答
全体	508	98	119	51	65	30	14	67	45	6	13	
八手庭	11	2	1	0	0	3	0	3	1	1	0	
横山	15	0	4	1	3	1	2	2	0	1	1	
大平	33	7	8	5	3	2	0	5	1	1	1	
小平	10	2	5	1	1	1	0	0	0	0	0	
鷺足	18	3	2	4	3	2	0	2	2	0	0	
山寺	36	8	6	3	5	1	0	7	5	0	1	
山下	40	5	14	3	5	1	1	5	4	1	1	
つばめの杜東	23	6	7	4	2	0	0	1	3	0	0	
つばめの杜西	18	1	5	4	3	1	0	0	4	0	0	
浅生原	49	9	11	9	4	0	1	9	5	0	1	
高瀬	23	2	10	0	3	1	0	6	0	0	1	
合戦原	12	4	2	1	2	1	0	2	0	0	0	
真庭	25	5	5	2	5	2	3	3	0	0	0	
久保間	7	1	1	0	3	1	0	0	1	0	0	
中山	14	2	4	1	4	1	0	0	1	0	1	
下郷	44	9	8	8	7	3	1	4	2	0	2	
町	35	7	6	0	7	3	3	5	3	0	1	
上平	11	3	3	0	1	1	1	1	0	1	0	
磯	3	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	
中浜	5	0	1	0	1	1	0	0	2	0	0	
新浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
笠野	6	1	2	1	0	1	0	0	1	0	0	
花釜	51	14	9	4	2	3	1	8	6	1	3	
牛橋	17	7	3	0	0	0	1	3	3	0		

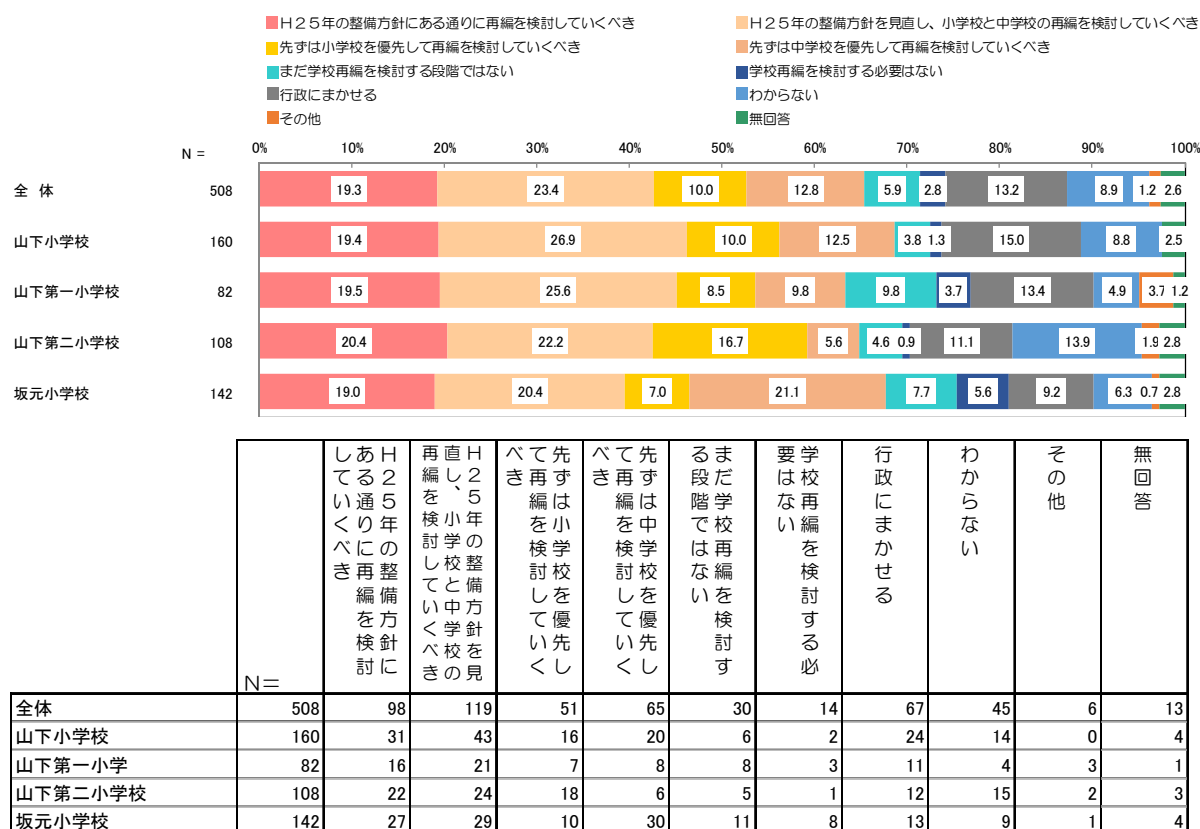
## 【小学校区別クロス集計】

ここでは、前述した「山元町小・中学校再編における検討の必要性」の結果について、小学校区別にその傾向をみていくものとする。

全小学校区で6割以上が「今後、何らかの形で学校再編の検討は必要」であった。

中でも「山下小学校区」と「坂元小学校区」については、7割近くの回答者が「今後、何らかの形で学校再編の検討は必要」としている。

一方、「まだ学校再編を検討する段階ではない」と「学校再編を検討する必要はない」を合わせて多かった小学校区は、「山下第一小学校区」13.5%、次いで「坂元小学校区」13.3%であった。

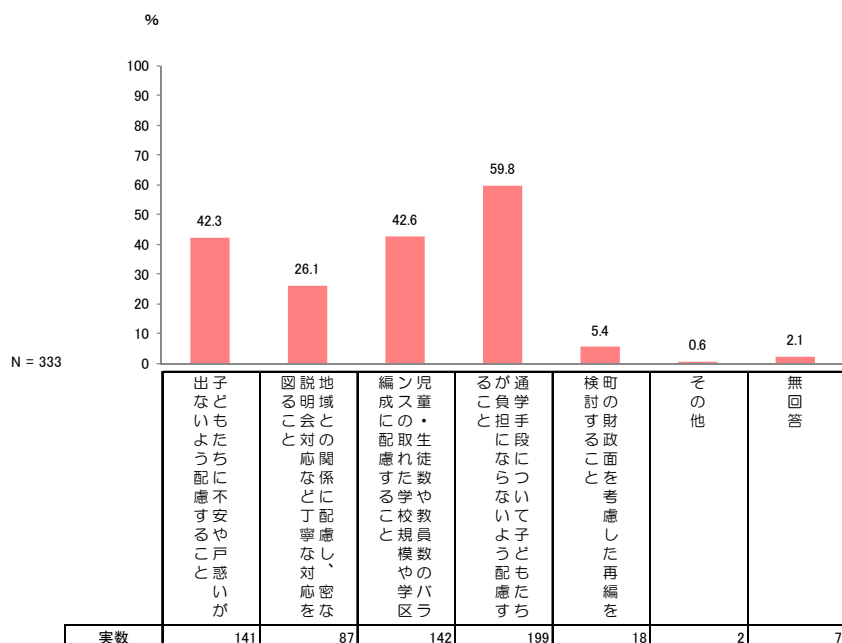


※構成比が0.0%の項目については、グラフ内の値(数値)の表記を省略している。

## (2) 再編を検討していく際に重要と考えること（複数回答）【問 10】

今後、「何らかの形で学校再編の検討は必要」とした回答者 333 名について、再編を検討していく際に重要と考えることは何かを確認した。その中で最も多いのは、「通学手段について子どもたちが負担にならないよう配慮…」199 票（59.8%）、次いで「児童・生徒数や教員数のバランスの取れた…」142 票（42.6%）、「子どもたちに不安や戸惑いが出ないように配慮…」141 票（42.3%）であった。

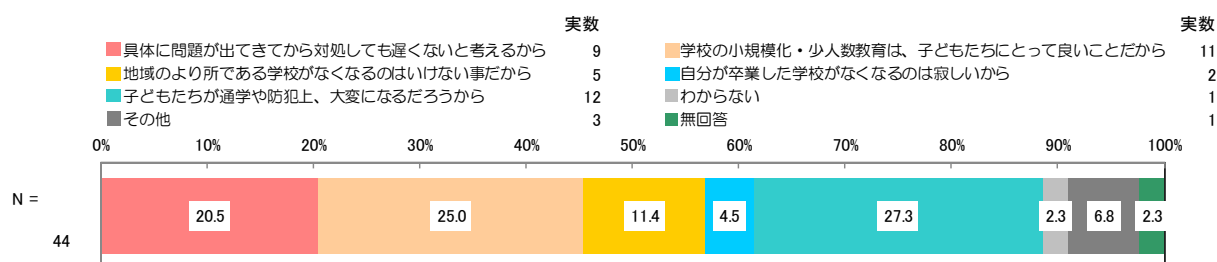
このことから、回答者の 6 割近くが通学手段において心配し、子どもたちに負担が出ないことを望んでいることが伺える。



## (3) 再編を検討する段階ではない・必要ないとしたこと【問 11】

また、「再編を検討する段階ではない」「再編を検討する必要はない」とした回答者 44 名について、その理由を確認した。その中で最も多いのは、「子どもたちが通学や防犯上、大変になるから…」27.3%、次いで「学校の小規模化・少人数教育は良いこと…」25.0%、「具体的に問題が出てきてから対処しても遅くない…」20.5%であった。

このことから、「再編の検討段階でない・必要ない」とする回答者と前述の「再編を検討する際に重要と考えること」の回答者については、いずれも「子どもたちの通学」を一番に考慮した回答であったことが伺える。



## 【小中学校の再編について】

児童生徒数の推移から、再編はやむをえないものと思う。地理的に他都市より再編しやすい環境にあると思うが、住民感情に配慮した進め方を希望する。少子高齢化は進む一方だが、子育てしやすい町づくり、子育て世代が定住しやすい町政を進めてほしい。
児童の少数化や状況に合わせた再編を。
統合には賛成。しかし、通学方法について不安がある。
児童数の減少に伴いやむなし。
郷愁などにとらわれない、将来を見据えた子どもたちのための再編を望む。
再編は必要だと思うが、地域住民の心情に配慮した進め方を希望する。
子どもたちの負担を最小限にするような再編を望む。
出来るだけ早い段階で検討すべき。
中学校は統一校として、校舎は現在の場所を利用し生徒を半数くらいずつに分ける。部活動については一つの場所に集まって行う。登下校は町の負担でスクールバスを用意する。
基本的に“子どもは少人数より大人数の中で育つ方がよい”と思っている。また、特に中学校は部活動などの事情を考えるとすぐにでも統合すべきである。
ある程度生徒数が多い方が、たくさんの人から刺激や影響を受けて視野が広がり、後に社会に貢献できる人材の育成に結びつくのではないかと。また、学校で教える指導内容の工夫の幅が広がる。なんといっても物事の（中学校では部活の）選択肢が増えて、経験の場や自分の適性を見つける機会が増えると思う。
中学校については学習・部活動面を考慮して、早期に一学区にしてほしい。
少人数だから教育の目が行き届くということでは必ずしもないと思う。狭い社会で過ごすと、そこから出た時になかなかなじめないという懸念もある。
山下第二小学区の生徒が山下小で授業を受けていたのでそのまま統合すると思っていた。人数が少ないのはわかっていたはず。なぜ改めてお金をかけ山下第二小を再建したのかかわからない。
中学校がひとつになると、遠方の生徒は部活などにより帰宅時間が遅くなり、子どもたちの通学や親の送迎が大変になる。少人数教育も子どもたちにとって行き届いた教育ができてよいと思う。
地域に、すぐそばに小中学校があるということが大事。少人数でも行き届いた教育を受けられるよう取り組むべき。
小学校が自宅と4km以上離れるのは望ましくない。たとえスクールバスがあっても時間に縛られてしまうのでよくない。複式解消加配が可能であれば再編の必要はないと考える。
坂元に小中学校がなくなってしまうと困る。子どもたちの通学する姿が見られなくて町の灯が消えたようになってしまう。学区の線引きを変えることによってバランスを保つことはできないのか。
例えば小学校が今の場所に無くなれば、様々な行事に参加していた地域の人との交流がなくなる。わざわざ遠くまで足を運ぶ高齢者はいないはず。高齢化が進む中、高齢者との交流も子どもにとっては大切なこと。
小学校の再編は必要ない。小規模校のメリットを活かす方が得策。
各学年十人前後の生徒数を維持できるのであれば統合はまだ考えないでよいと思う。自宅から近い学校に通うことによって時間にゆとりができ、朝夕といきいきと活動できる。少人数のためきめ細かい指導や、活躍できる場が多いなどのメリットもある。
学区ごとに小中学校があればよいと思う。

## 【学校区、通学路、通学バス等について】

地区ごとに再編されるのが望ましい。牛橋区が二学区に分かれたことを踏まえ、学区の廃止、再編を。
統合にあたりスクールバス導入の検討を。また、自動車で送迎しやすいよう通学道路の整備を。
統合が実現した場合、遠方からの通学者に対してどう考えているのか。通学手段、災害時における対処の仕方。また、多様な家庭環境がある中、費用の負担や学校行事との関わり方の問題はどうか。
交通(通学)手段についてよく考えるべき。
特に低学年の児童の通学方法について考えてほしい。スクールバスの導入など。
通学方法について。地域の交通の妨げにならないように、やむを得ない事情がない限り極力スクールバスでの通学をしてほしい。どうしても親の送迎が必要な生徒は学校に届け、許可を得る等の制度をつくるべき。
安全面より考えて、再編の際は全生徒スクールバスでの通学がよいと思う。
生徒が減っていつているので、山下小学校と山下第二小学校をひとつにした方がよいと思う。
坂元と山下をまとめて小中学校をひとつずつにしようか。通学についてはスクールバスを運行すれば問題ない。思い切って再編を進めればよいと思う。
再編したらスクールバスが必要になると思う。
再編を進めていくしかない状況だとは思いますが、通学がスムーズにいくか心配。
子どもたちの通学手段を(スクールバス、ぐるりん号等で)確保して、小中学校をひとつずつにするべき。
統合となるとスクールバスなどを利用することになると思うが、中学生は部活動で時間が遅くなる、場合親の送迎も必要になり負担が増えるのでは。ぐるりん号も登下校の時間に合わせてはどうか。
将来的には小学校2、中学校1の再編には賛成。その際、小学校は坂元地区に1校、山下地区に1校としてほしい。せめて小学校時代は地域で育ててほしいという願いがあるので。中学校については通学に負担のないところ1校に統合することを望む。
長距離通学の生徒の安全・防犯に配慮し、スクールバスとしてぐるりん号を活用しては。また、中学校の部活動に、JR常磐線山下駅⇄坂元駅を利用しやすいような配慮をしてはどうか。
スクールバスを生徒だけでなく、町民全員が利用できる仕組みにしたいと思う。
山下第二小学校区に山下地区のすべての学校(もしくは坂元も)を集めて統合したいのではないかと。保育所も近くにあるので、子どもたちと一緒に見られるのはメリットだと思う。
小学校区は山下、坂元で各1校、中学校区は山元で1校という形が望ましい。
現在でも徒歩で通えない距離なので、毎日の送迎が負担。出来る事ならぐるりん号のコースや運行時間を子どもがいる世帯の住所を考慮してうまく回してほしい。
通学手段をきちんと確保してほしい。丸森町のように中学校をひとつにまとめスクールバスを運行するのがよいと思う。
部活動の時間も含めたスクールバスをの運行を。



## 【その他】

山元町での子育てを望む親の人口が増えるよう、教育環境の整備だけではなく子育てしやすい地域環境の整備を進めるよう検討してほしい。
中心部だけではなく、過疎が進む地域にも目を向けた街づくりを。若者に魅力的な街づくりを考えるべき。
再編を考えるなら、なぜ山下第二小学校を再建したのか。山下小の老朽化がさらに進んだ場合、浸水地域にある山下第二小学校に統合されるのではと不安。
まずは町民(子育て世代)を増やす施策、PRを。
まずは通学路の整備、現在山下の町の中は歩道が整備されておらず危険である。再編の場合はスクールバス等の運行を。また、再編の区割りによって今まで同じ学校に通っていた友達と離れ離れになる可能性はないのか。交友面での問題が出てくるのではと不安。
再編後の小中学校は、老人医療施設などの活用できれば地域住民の理解も得やすいように思う。
単に統廃合という視点だけではなく、小中一貫校等の事例も参考にしながら検討すべき。
町としては移住者計画を優先すべきであって、学校の再編についてはその後検討するべき。
山下第二小に統合するとしたら、校舎の大きさが足りないのでは。
児童数の減少がわかりきったうえでの山下第二小の建設に疑問。山下小も近いし必要なかったのでは。
再編を考えているなら山下第二小はいらなかったのでは。国のお金とはいえ無駄だったと思う。
こうなることは前もってわかっていたのでは。第二小の再建は私にはわかりません。あとは行政にお任せします。
山下第二小学校を整備したのちの、さらに再編計画となれば保護者は二重苦の決断となる。これまでの投資はやむなしとして決定に従うしかないのか。
震災後の山下第二小建設について斎藤町長および教育長の説明があった場面で、第二小を建設した場合もこの先山下小・山下第二小は残すと確約した。斎藤町長に小学校が廃校にならないように、震災前の人口より増やすようにと申し入れた。
今更だが、児童数が少なくなるのに山下第二小を再建する必要はあったのだろうか。
平成24～25年の検討委員会で検討・議論されていたのにもかかわらず、山下駅前に山下第二小を建設したのは間違いでなかっただろうか。建設費用は山下小学校の修繕に充てるべきだったと思う。
平成24年から検討されていたのであれば、山下第二小の建設ももっと検討してからの方がよかった。2学校区となると、現在の小学校の校舎の立地や築年数から考えて、今後の財政面も不安。また、現状での4学校区を維持するのも大変。
再編の検討が進んでいるのならば、山下第二小を再建すべきではなかった。統合することも視野に入れて建てたとは思えない。
「児童生徒数の減少が進んでいる」としながら山下第二小を再建したことが理解できない。しかも浸水地域に。子どもが少ないこと、津波の事を考えた時に山下第二小の建物の必要性はあるのか。通わせるのにも不安な場所だと思っている。
小中学校の再編を考えるなら、山下第二小再建の前に安全面や必要性など多方面から見直して検討すべきだった。新市街地に集約する事ばかりが目立って、山元町全体の事や安全への意識が薄れている気がする。現在の山下小の校舎がさらに古くなった場合、山下第二小に統合されるのか、山下第二小より西に家がある児童の親は通わせたくないと思う。
山下第二小学校区の児童が山下小で授業を受けていたので、そのまま山下小へ統合されるものと思っていた。人数が少ないことはわかっていたはずなのに、何故わざわざお金を使って山下第二小を建てなければならなかったのかわからない。

参考

地域住民意向調査票